

内部質保証における自己点検・評価報告書  
(対象年度：2022（令和4）年度）

2023（令和5）年月9月  
福岡女子大学 自己点検・評価委員会

## 1. はじめに

福岡女子大学では、教育研究活動等の改善・向上を目的として組織や規則の見直しを行い、2021（令和3）年12月に「公立大学法人福岡女子大学内部質保証推進規程」を新たに制定し、自己点検・評価委員会が内部質保証の推進を担うこととした。自己点検・評価委員会の委員長には学長をもって充て、全学における責任体制を明確にした。また、2022（令和4）年4月に「福岡女子大学内部質保証実施要領」（以下「実施要領」という。）を制定し、各組織が自己点検、評価、改善を実施するための具体的手順を定め、新たな内部質保証体制の運用を開始した。

実施要領の第2条には、内部質保証の対象とする活動を、教育課程に関すること、施設及び設備に関すること、学生支援に関すること、学生の受入に関すること、研究に関すること、国際化に関すること、地域連携に関すること並びに情報化及び内部質保証の実施支援に関することと定めている。これらの活動について、各活動に関わる学部や学科、研究科、センター等が、点検・評価を行う。点検・評価は、1年に1回行うモニタリング（簡易な点検・評価）及び5年から7年に1回行うレビュー（総合的な点検・評価）（以下「モニタリング等」という。）によって実施する。本報告書は、2023（令和5）年度に実施した内部質保証の結果をまとめたものである。

## 2. 実施手順

本年度は、モニタリングを実施したが、2022（令和4）年度に設置した言語教育センター、女性リーダーシップセンター、国際フードスタディセンターについては、初めての点検・評価となるため、レビューを実施した。点検・評価の対象は2022（令和4）年度の諸活動である。

本学の学部教育課程は国際文理学部の1学部体制であり、国際教養学科、環境科学科、食・健康学科及び学部共通教育機構（以下「学科等」という。）から構成されており、学問分野が多岐にわたる。そのため、まず学科等の長は国際文理学部長の指示の下、モニタリング等を行い、その結果を国際文理学部長に提出する。国際文理学部長は学部として総括したモニタリング等を実施し、その結果を学科等の結果と共に自己点検・評価委員会に提出する。

人文社会科学研究科、人間環境科学研究科、各センター及び附属図書館（以下「研究科等」という。）の長は内部質保証の対象となる活動についてモニタリング等を行い、結果を自己

点検・評価委員会に提出する。各組織は実施要領に別紙様式として定める自己点検・評価シート（以下、「自己点検・評価シート」という。）の「I チェックリスト」を用いてモニタリング等を実施する。その結果、改善を要する事項があると認めた場合は、自己点検・評価シートの「II 改善を要する事項」に改善計画及び進捗状況を記載する。

各組織での対応が困難であり、全学での検討が必要であると判断した事項については「III 全学での検討が必要な課題」に記載する。また、必要に応じて「IV 優れた成果が確認できる取組」に具体的内容を記載する。このように作成した自己点検・評価シートを自己点検・評価委員会に提出する。自己点検・評価委員会は各組織から提出された自己点検・評価シートに基づき、本学の活動全体についてモニタリング等を行う。今回確認された課題については、自己点検・評価委員会がその後の対応状況について確認を随時行う。

### 3. 総括

本年度は2年目の自己点検・評価を迎え、課題及び改善の取組が積極的にあげられた。2022（令和4）年度に実施したレビューにおいて、「改善を要する事項」で挙げられた課題が改善されるなど、各組織においてPDCAサイクルを回し課題の改善に取り組んだ成果が分かる内容となった。

「全学での検討が必要な課題」には、項目番号1-29「卒業（修了）後、一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取及び就職先等からの意見聴取について、大学の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られているか」に関して複数組織から挙げられており、今後自己点検・評価委員会を中心として、体制の整備を含めて検討を行う必要がある。

また、今回のモニタリングは2023（令和5）年3月～4月に実施したが、点検・評価に使用する資料の提供時期や人事異動の時期等が問題となったため、次回以降の実施時期について見直しを検討する。

### 4. 「改善を要する事項」のうち主なもの

#### 1) 教育課程に関すること

- ・項目番号1-14、1-15 2022（令和4）年度からスタートした新カリキュラムにおいて国際教養学科ではコース制を廃止したため、学生が専門領域や学科の履修指導を受けやすい体制を整備する必要があり、学科で検討する（一部実施中）。

[国際文理学部6ページ、国際教養学科12ページ]

- ・項目番号1-33 SA・TAの質の向上を図る取組について周知できていなかったため、2023（令和5）年度の教授会で周知を行う。

[教育・学習支援センター34ページ]

- ・項目番号1-34 授業アンケートについて、実態に合った設問や改善点がないか見直す。また、回答率が下がっているため回答率向上のための対策を検討・実行する。

[教育・学習支援センター 34 ページ]

3) 学生支援に関すること

- ・項目番号 1-17、3-4 「障害のある学生支援の手引き」の内容について見直しを検討中。他大学の情報を収集の上、進める。

[学生支援センター 53 ページ]

4) 学生の受入に関すること

- ・項目番号 4-4 環境科学科において、定員を満たしていない入試があった。アドミッションセンターと対策を検討し、対応を行う。

[国際文理学部 58 ページ、環境科学科 62 ページ]

- ・項目番号 4-4 大学院では、内部進学者を増やすための対策を実施した。人文社会科学研究科では内部進学者を増やすため、オンラインでの説明会を実施した。人間環境科学研究科では、オリエンテーション等での PR や研究科のホームページにおいて研究内容の紹介を検討する。

[人文社会科学研究科 64 ページ、人間環境科学研究科 66 ページ]

- ・項目番号— アドミッションセンターにおいて、入試問題作成業務におけるミスの防止について、再発防止のための取組を検討した。

[アドミッションセンター 68 ページ]

5) 研究に関すること

- ・項目番号 5-4 福岡女子大学基金を活用した研究支援について、助成の目的や選考方法、助成金額等について規定の一部を改正したが、公平性を欠く事案が生じたため改めて見直し、更なる規定の改正を行った。

[女性リーダーシップセンター 72 ページ]

## 5. 「全学での検討が必要な課題」

1) 教育課程に関すること

- ・項目番号 1-29、1-30 「卒業（修了）後、一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取及び就職先等からの意見聴取について、大学の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られているか」の項目について、大学として方針を明確にし、実施回数、体制を含めた検討が必要。また、回答率が低く、結果を活用するには偏りがあるため、回答率向上に向けた対策を検討する。

[国際文理学部 7 ページ、環境科学科 16 ページ]

- ・項目番号 1-36 「学習成果の測定方法についての検証し、改善をはかっているか」の項目について、学修ポートフォリオへの学生の入力率の低さが課題としてあり教育・学習支援センターを中心に改善を図った。2023（令和5）年度も改善を図っていく。

[国際文理学部 7 ページ、食・健康学科 21 ページ]

## 6. 「優れた成果が確認できる取組」のうち主なもの

### 1) 教育課程に関すること

- ・項目番号 1-26 食・健康学科において、日本人学生の管理栄養士国家試験合格率は直近5年間100%である。

[国際文理学部 8 ページ、食・健康学科 21 ページ]

- ・項目番号 1-36 学習成果を測るための学修ポートフォリオについて、学生・教職員が検討し、記載事項を見直すとともに「マニュアル」「ヒント集」を作成した。FDにおいて、教職員に改善の取組と「学修ポートフォリオ」そのものについて周知するとともに、アカデミック・アドバイザーを通して学生に「マニュアル」「ヒント集」を配布・周知し、活用を促した。

[教育・学習支援センター 35 ページ]

- ・項目番号 1-16 学生委員の活動について、2023（令和5）年度は、6委員会に対し過去最多人数となる学生35名が共に活動することとなった。「"My Leadership" Journeys」を制作し、成果を発表した。

[学生支援センター 41 ページ]

### 2) 施設及び設備に関すること

- ・項目番号 2-6 学生の自主的学習環境整備のため、共同研究室の使用ルールを定め、学生・教職員に周知した。

[教育・学習支援センター 51 ページ]

### 3) 学生支援に関すること

- ・項目番号 3-1 コロナ禍が継続する中、4月に新入生全員を入寮させ1年次全寮制教育を実施することができた。共同生活における感染予防の指導を実施したことにより、寮内での感染拡大を防止し安心安全な寮生活の支援を行った。

[学生支援センター 54 ページ]

- ・項目番号 3-2 サークル活動、かすみ祭、ブースガイダンス等、コロナ禍における実施を支援した。

[学生支援センター 54 ページ]

- ・項目番号 3-1 学生相談室について、オンラインでの面談体制や関係機関との連携による支援を行った。

[学生支援センター 54 ページ]

- ・項目番号 3-1 新たな就職先開拓のため、関東・関西圏の大手企業を訪問した。また、キャリア支援部会の学生委員による、1、2年生向けのワークショップを開催した。

[学生支援センター 54 ページ]

以上